



文京学院

〈ふじみ野キャンパス〉
文京学院大学人間学部・保健医療技術学部
／大学院／文京学院大学ふじみ野幼稚園
〒356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保1196
☎大 049-261-6488 幼 049-262-3806
〈駒込キャンパス〉
文京学院大学女子高等学校／文京学院
大学女子中学校
〒113-8667 東京都文京区本駒込 6-18-3
☎03-3946-5301

〈本郷キャンパス〉
学校法人文京学園
文京学院大学経営学部・外国語学部・
保健医療技術学部／大学院／文京学院
大学生涯学習センター
〒113-8668 東京都文京区向丘1-19-1
☎大 03-3814-1661 生涯 03-5684-4816
文京学院大学文京幼稚園
〒113-0023 東京都文京区向丘 2-4-1
☎幼 03-3813-3771



写真提供＝株式会社ディア

これからは「教学マネジメント」が重要に

学長 工藤秀機



年頭にあたり新春のご挨拶を申し上げます。本学のホームページを見ていると、学内行事、学外貢献、新企画など年々その活動の幅が広がっており、教職員の皆様がたの活躍には目を見張るものがあります。大学が成長しつづけることを感じます。成長する

ことは素晴らしいことです。同時に少しずつ組織が肥大化してゆくに統一性が希薄になり、運営が散漫になりやすいという一般的な傾向が出てきます。組織が成長し肥大化してゆくときには、プラス面とマイナス面が現れるのはやむを得ないことなのですが、マイナス面を放置すれば組織の力をそぐことになってしまいます。そのためにはシステムが散逸してゆかないような基準を新たに設ける必要があります。

古代メソポタミアでは長さの基準として「キュビット」が用いられていました。この長さの単位は、肘から中指の先までの間の長さに由来する身体尺で、2キリュビットが約1メートルに相当したといわれていますが、人によりその値は様々であったものの昔はそれで十分通用していたわけです。しかし現在のうちに、宇宙にまで飛び出してゆく人類にとってそのような基準は使えない物になります。今では「0.999792458分の

1秒」に光が進む距離を1メートルと厳密に定義しておりこれが世界標準になっています。実はこのことを大学の運営や教育の場のアナロジーとしてみることができるとです。かつて大学は各教授の研究分野のみを学生に講義していたけれど、学生も実質的な学修成果よりも卒業単位を取ればそれでよかった時代もありましたが、現在のうちにグローバル化、多様化が進む時代のなかでそのような教育はシステム

を散逸させる事になってしまいます。時代の要請に合った人材育成をするには、そのための新基準を設けて教育システムの秩序化を図らなければなりません。その時代はきています。その基準とすべきものが教学マネジメントであると考えるべきです。従って今後、教育の内部保証、学習成果の可視化、教学に関する情報公開等が重要になってくると思っております。是非皆様ごとのご支援ご協力も併せてお願いしたいと思います。

社会の変化に対応する「教育力日本一」を目指して

理事長 島田昌和



2019年の年頭に当たり、ご挨拶申し上げます。「教育」の重要性が改めて問われる今日この頃であると感じております。「教育」とは何でしょうか。学ぶこと、学びを授けることであることは誰も真つ先に思い浮かべることでしよう。『広辞苑』には「社会生活に適応するための知識

・教養・技能などが身につくように人に教えること」と、またそれによって身に備わったもの」と出てきます。学びは「社会生活に適応するため」のものでなければならぬように思います。もしかすると、今学んでいることは本当に社会で役に立つのかと思いつながら学んでいる人がいるかも知れません。欧米の高校では、フリースローをどう投げたからリングに一番入るかをテーマに決めて、それに物理学的なアプローチをするそうです。日本の教育

は、きちんと基礎を身につけてから初めて応用に向かう傾向が強いように思いますが、それが一番かどうかわかりません。考えるときに考えているかもしれません。そもそも適応すべき社会が大きな変革期に差し掛かっています。AI技術、少子高齢化の進捗に伴う社会構造の変化、地球温暖化や化石燃料の枯渇なども大きな危惧です。これらの差し迫る社会変革をきちんと理解し、対応できる能力を身につけることが現代における「教育」の目的と云って

も過言ではないでしょう。文京学園にはそれらに挑むたくさんの種があり、すでに発芽し始めています。中高では科学探究プログラムによる仮説検証活動が活発であり、大学では学生が社会に飛び込み、リアルな社会問題の解決に取り組む活動が成果を上げています。私も「教育力日本一」を目指すことを掲げています。高い目標でありませんが、日本一になるためには私たちの足もとを固め、一歩一歩頂上に近づいてプロ

フェスを用意し、進み具合をよく確認して次のステップに移っていかねばならぬ高みに到達することはできません。学生・生徒・教職員が大きな目標を共有し、社会に役立つ研究や教育手法の開発に尽力し、学生や生徒が教職員のサポートを受けながら実践してレベルアップして次なる高みに挑戦する。創立95周年という記念すべき年に、教育力に満ちあふれた学校とすべく邁進してまいります。

「自立と共生」の教育

学園長 島田燦子



年頭にあたり本年も学園の皆様、ご家族まで健康でよい年でありますよう祈念申し上げます。平成最後の新年として感慨深いものがありますが、おそらく新年号への移行と東京オリンピック・パラリンピック開催前年として大きな課題がみられる年となりましょう。

その課題とは、昨年の数回に及ぶ甚大な被害をもたらした台風、豪雨、高温、山火事などに代表される私どもの環境の変化への心配です。国連はすでに2015年にSDGs（持続可能な開発目標）を世界の目標と掲げ、17の項目を具体的に示してきました。国連で正式に合意されて、2030年までを目標としているものの一つに「気候変動」があります。二酸化炭素を減らす生活環境への努力を、先進国が早急に努力しなけ

ればなりません。地球環境という大きな観点を、本年はより意識してまいりましょう。さて、学園の建学の精神は「自立と共生」であります。私は今まさに世界の一人として、社会の一員として、そして一人ひとりの人間としてこの「自立と共生」を真に大切にしていくなきと考えております。学園としては、創立者の島田依史子先生という実践者の教えを現代に活かしていくこと

たいと決意を新たにしております。依史子先生も簡単に自立できたわけではありません。自信をもって臨んだ中学受験はうまくいかず、いやいや通った女学校では先生と衝突しますが、そんな中で人と心楽しく生きていくことの大切さに気づき、成長すること他人からも信用されるようになりました。中等教員資格を文部省の検定試験で取得し、悩んだ末、関東大震災の体験を経て自宅に小さな学校を開きました。

女性の自立を支援したい、通ってくる子どもや母親を喜ばせたい、幸せになってほしいと願ったのでした。その後も苦勞は絶えることなく続きましたが、園児、生徒、学生を思う気持ちで、自分の足で歩き、目で見、頭で考えて生きる姿勢こそ生涯変わらなりました。この原点を忘れず「自立と共生」を目指して今年も歩んでまいります。AIの進展が進みそうですが、「人」として「誠実」「勤勉」「仁愛」の教えを大切にしたいです。

大学 本郷キャンパス 先輩から後輩へ「キャリアてっぺんフォーラム」でエール

先輩が後輩のために「大学生活」「就職活動のノウハウや体験」などについて話し、「アドバイス」を贈る「キャリアてっぺんフォーラム」(主催=同実行委員会)が昨年12月12日、本郷キャンパス仁愛ホールで開催され、外国語学部と

厳しい就職戦線を勝ち抜いて、希望の企業から内定を得た4年生が、後輩にエールを贈りました。



航空会社/関根大展(外国語学部)

関根さんは、3年次後期にオーストラリアに留学。さらにアメリカでフィールドワークを体験し、3年次の3月から「会社の雰囲気」を軸に就活をスタート。自身はインターンシップの経験はありませんが、それに代わる「何か」が就活時に必要であると感じて、「留学体験」をアピールしました。

関根さんは、就活までに「自己分析」「企業研究」「アドリブ力の向上」が大切であると強調。特に「面接で、どのような質問にも答えられるアドリブ力」の必要性について話した。後輩には「単に就職のためではなく『色々な人との会話を楽しむ』『人と比べない』『自分の就活をしてほしい』と希望。『分からないことがあればキャリアセンターへ』とアドバイスしました。



専門商社/宮下日菜子(経営学部)

宮下さんは、1年次から本学の東日本震災復興支援プロジェクト「フレームズ」に所属。またGCI留学も体験。2年次にはAnimeJapan 2017学生実行委員長、海外フィールドワークなど多くのことを体験しました。

就活では、最終的に業界を絞らずに活動。当初自己PRが書けず、キャリアセンターで「5歳からやっている柔道について書いてみては?」とアドバイスを受けて完成。志望動機は「みんな就活を参考に作成。就職を決めた理由は『様々な業界と関わることができる』『社員の温かさ』『福利厚生充実』などでした。後輩には『納得のいく就職活動を』『自己PRポイントは1つに絞る』などのアドバイスをしました。



司会の宇佐美さん(左)と田崎さん

松尾委員長

会場の学生たちは、体験を堂々と語る先輩の姿に見入り、話に聴き入りました。参加学生からは「早いうちに具体的な体験談が聞けて良かった!」「就活に不安を抱えていたが、むしろ楽しくなった」等の感想が聞かれました。

松尾委員長は「就活を終えた4年生の経験談を聞くことができる『キャリアてっぺんフォーラム』はとても貴重なものだと思います。委員長として皆を引き上げていながら視野を広げて、仕事に取り組んでいくことが良かったと思います」と成果を喜びました。

大学 「ラトビア、建築展覧会」本学で

建築の魅力を通して、日本とラトビア共和国の友好関係発展を目指す展覧会「ラトビア、建築展覧会」(主催=駐日ラトビア共和国大使館)が、11月30日、12月6日まで本郷キャンパスで開催されました。



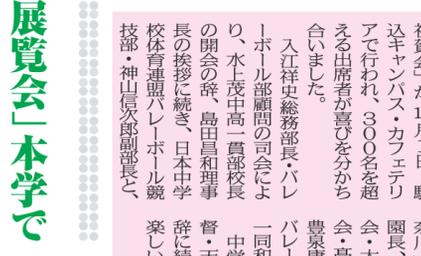
駐日ラトビア共和国特命全權大使(前列右から3人目)を囲んで

大学 「島田杯」で英語力発揮

「島田杯」英語力発揚大会(2018)が12月8日、本郷キャンパスで開催され、全国の大学から英語の達人10名が豊かな英語力を競い合いました。本学からは、ケネス・エディソンさんが参加。惜しくも入賞は逃しましたが、「このような大会で、英語の強豪校の学生と共に競えたことは本当に幸せなこと」と笑顔で感想を述べました。今年度の優勝は、早稲田大学が勝ち取りました。

大学 「インターンシップ 2学部で報告会」2学部で

外国語学部と経営学部によるインターンシップ報告会が1月21日、本郷キャンパスで開かれ、76名のインターンシップ生の代表18組がそれぞれカイホールウイングホールにおいて企業担当者、本学関係者を前に、堂々と発表を行いました。



堂々とプレゼンする学生

中高 「中学バレー 祝勝会」盛大に

東京都小学生バレーボール連盟・片野昭秀会長より祝辞を頂戴。日本バレーボール協会女子強化委員・太田豊彦副委員長、全日本中学校バレーボール連盟の優勝を勝ち取りました。

大学 「インターンシップ」2学部で

外国語学部と経営学部によるインターンシップ報告会が1月21日、本郷キャンパスで開かれ、76名のインターンシップ生の代表18組がそれぞれカイホールウイングホールにおいて企業担当者、本学関係者を前に、堂々と発表を行いました。



堂々とプレゼンする学生

中高 「中学バレー 祝勝会」盛大に

東京都小学生バレーボール連盟・片野昭秀会長より祝辞を頂戴。日本バレーボール協会女子強化委員・太田豊彦副委員長、全日本中学校バレーボール連盟の優勝を勝ち取りました。

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、清らかな新年をお迎えの運びとお慶び申し上げます。また、昨年は、多くの皆様にご支援いただき、心より感謝申し上げます。

さて、この新年間を振り返りますと、実に多くの卒業生とお会いすることができました。自分の教えてきたことが、社会人として活躍していることを報告に来てくれたり、母親となって子ども連れで訪ねて来てくれたりするなど、さまざまに接することができました。文京学院開校以来、卒業生が活躍していることを報告に来てくれたり、母親となって子ども連れで訪ねて来てくれたりするなど、さまざまに接することができました。

この3月には、新たな卒業生が本校を巣立っていきま

す。次の新しいステージでの成長や活躍を心にかけていますが、広い世界に出ていく彼女たちのことが少し気にかけてあります。この先の人生の中では、多くの喜びや楽しみが待っていると同時に、悩みや困難にぶつかることもあるでしょう。そんな時、少しでも力を与えられるよう存在でありたい。一人ひとりの人生の節目に寄り添い、母校に足を運んで青春時代を思い出させてあげたい。95周年を迎えるにあたって、在校生の教育活動を進捗するとともに、「永久サポーター」としての役割をしっかりと果たせるよう、教職員一同、一層の研

大学 「インターンシップ」2学部で

外国語学部と経営学部によるインターンシップ報告会が1月21日、本郷キャンパスで開かれ、76名のインターンシップ生の代表18組がそれぞれカイホールウイングホールにおいて企業担当者、本学関係者を前に、堂々と発表を行いました。



堂々とプレゼンする学生

中高 「中学バレー 祝勝会」盛大に

東京都小学生バレーボール連盟・片野昭秀会長より祝辞を頂戴。日本バレーボール協会女子強化委員・太田豊彦副委員長、全日本中学校バレーボール連盟の優勝を勝ち取りました。

永久サポーター校をめざして

「永久サポーター校」をめざして、2019年新春のお慶びを申し上げます。本校でも新入生制度を視野に入れ、4年の歳月をかけた成熟期を迎え、コース制の取り組みが本格的に向け満を持して本格始動いたします。今年も、生徒一人ひとりが「夢」という「可能性」に向かい、「無事」「富士」に、それぞれの高「【無】い目標めざし、それをよす教職員一同努力して参ります。皆様の「指導」「支援」をお願い申し上げます。



新春のお慶びを申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。幼稚園「【無】い目標めざし、それをよす教職員一同努力して参ります。皆様の「指導」「支援」をお願い申し上げます。

「非認知能力」を育む重要性

文京幼稚園園長 益田薫子。幼児教育は、未来への最大の投資であるという言葉があります。今、私たちが携わっている幼稚園は最高の可能性を持った場です。未来を担う子どもたちのために、感動と感謝の気持ちをもち、子どもたちの成長を応援していきたいと思



幼稚園園長 益田薫子

中学校生徒会 会長 加藤真尋(3期)

新年明けましておめでとうございます。昨年12月19日に生徒会選挙を終え、第3期生徒会が誕生しました。様々な課題を乗り越え、無事に引き継ぎ、多くの方々が被害に遭われませんでした。不慣れな生活を送りながら、助け合う姿をニュース等で目にすることが多くなりました。

更なる発展を志して 学生生活をより良いものに 礼儀は「挨拶」から 新しい時代に向かって

本郷キャンパス学生自治会本部 会長 岩山雄大(経営学部3年)。新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり、「挨拶」申し上げます。本郷キャンパス学生自治会本部では、昨年も皆さまから多大なるご協力をいただき、学内のイベントを無事に終えることができました。私の中では、様々な失敗がありましたが、色々と経験を重ねることで多くを学ぶことができました。

今年度は、学生自治会長として最後の年になります。今後、後輩たちが学生自治会をさらにより良い形で発展させていけるよう、役員一同全員で力を合わせ、残りの任期を全うして参ります。本年が皆様にとって、良い一年となることを祈っております。

中学校生徒会 会長 桑原来々寧(2期)。新年あけましておめでとうございます。皆さんの今年の運勢は何ですか。私は「礼」です。昔頃から礼儀正しく過ごそうという意識を込めてこの漢字を選びました。

特に礼儀の中でも大切にしたいのが挨拶です。挨拶での第一印象は決まります。良い挨拶をする事で、気持ちよく1日をスタートすることが出来ます。「習慣が変われば人格が変わる」というように、良い挨拶を続ければよい人格が備わるとも思います。元気な挨拶は、プラスに働くことが多いです。

高校「研究成果報告会」活発に

昨年12月15日、駒込キャンパスに於いて「平成30年度 研究成果報告会」が開催され、「理数キャリアコース」「国際教養コース」(「アジア研究」含む)「スポーツ科学コース」の3コース合同による高1・2年生の報告会が活発に行われました。



口頭発表中の高1メンバー



ポスター発表中の生徒たち

まず始めに、BAL2での開会式で、清水直樹高等部校長が保護者、外部来校者、生徒に向けて挨拶。続いて、「写真左から」1梅の森本佳依さん、豊田珠季さん、1秋の伊藤朱里さんが、「How to Make The BEST Ume Jam (最高の梅ジャムの作り方)」をタイトルに口頭発表を行いました。

各500gの生梅8サンブルについて、300gと400gの4種類の砂糖(上白糖・グラニュー糖・三温糖・素揚げ糖)で煮て生

その後、会場を移動して全員が力作のポスターの前で発表に臨みました。例えば「理数キャリアコースでは「レモンとグレープフルーツの皮を使った消臭実験」柿渋と木材との消臭実験、国際教養コースでは「児童婚と教育」「パンングラデシユから考える所得格

差と教育格差の関係」(アジア研究)、スポーツ科学コースでは「高いジャンプしたくない?」「味覚によるパフォームンスの変化について」など、全体で74テーマのどの発表も、各コースに相応しく創意工夫に満ちた内容でした。

島田輝子学園長も各ポスターを巡り、生徒の熱心な説明に耳を傾けました。閉会式では、両宮正典高等部副校長が挨拶。生徒のこれまでの活動と研究成果を称え、更なる研究継続へのエールを贈りました。



トモちゃん トモちゃん! 豆まきしよう! トモちゃんが 鬼ぬ。

鬼は〜外〜 福は〜内〜

疲れた後は 豆を食べるに 限るぬ。

トモちゃんに 豆を食べてみる!!

中学

「合唱コンクール」歌声清らかに



チームワークで練習成果を發揮

中学生全員がクラスごとに歌声を披露する「合唱コンクール」が12月15日、島田輝子学園長、島田昌和理事長、水上茂中高一貫部校長、高石和人副校長らが出席のもと、仁愛ホールで行われました。

生徒たちは当日まで、ナ眼を惜しんで練習を重ね、時には衝突しながらも問題解決し、クラスの結束力を高めてきました。

同コンクールは「姿勢・態度」「声の美しさ」「ハーモニーの美しさ」「表現力」を審査基準に、最優秀賞、優秀指揮者賞、優秀伴奏者賞が選ばれます。さらに、ハーモニーやチームワークなどを評価する4つの賞が各クラスに贈られます。課題曲は1年生:校歌、『B delweis』(2年生:『故郷

中学生全員がクラスごとに歌声を披露する「合唱コンクール」が12月15日、島田輝子学園長、島田昌和理事長、水上茂中高一貫部校長、高石和人副校長らが出席のもと、仁愛ホールで行われました。

歌声で審査は難航しましたが、次の結果となりました。

★1年生【最優秀賞】桃組『Unimitted』【優秀伴奏者賞】大越美潤(菊)

★2年生【最優秀賞】桃組『あなたへ』旅立ちに寄せけるメッセージ』【優秀伴奏者賞】吉川美羽(桃)

★3年生【最優秀賞】菊組『Lemon』『FIGHT SONG』『ありがとう、そしてさよなら』【優秀指揮者賞】大城ひなた(栗)、嶋田楓月(菊)、泉水唯花(桃)【優秀伴奏者賞】齋藤美海(栗)、小宮夕佳(同)

★4賞【Harmony賞】(豊かな和音響き)1桃、2菊、2桃、3栗、3桃 Ensemble賞(チームワーク)1栗、2栗、3菊【Dolce賞】(美しい声)1菊【Cantabile賞】(表情の豊かさ)該当なし

なお、同コンクールにおいて、各学年の合唱委員たちが献身的にサポート。仁愛ホールを埋め尽くす観客席からは、全生徒に対して大きな拍手が贈られました。

大学 車椅子バスケットボール体験会

「共生」の意識を育む活動として、12月12日、本郷キャンパス・メセナで開かれた。これは、経営学部の学生たちが、バラスポーツを通して障がい者への理解促進を目指す研究の一環として、学内外の学生たちに参加を呼びかけ、

「共生」の意識を育む活動として、12月12日、本郷キャンパス・メセナで開かれた。これは、経営学部の学生たちが、バラスポーツを通して障がい者への理解促進を目指す研究の一環として、学内外の学生たちに参加を呼びかけ、

当日は、車椅子バスケットボールチーム(GRAPE)の選手2名とコーチ1名が、学生たちに個々の体験を語った後、車椅子の操作やシュートを指導。選手同士、激しくぶつかり合うシーンも披露し、その迫力の凄さに「息を飲みました。練習後は、実際に試合を体験し、車椅子に座ったまままで通常の高さのゴールにシュートする難しさを実感。和気あいあいとバラスポーツを楽しみました。



「共生」の意識を育む活動として、12月12日、本郷キャンパス・メセナで開かれた。これは、経営学部の学生たちが、バラスポーツを通して障がい者への理解促進を目指す研究の一環として、学内外の学生たちに参加を呼びかけ、

大学 「国際連携教育プログラム」修了式和やかに

平成30年度「国際連携教育プログラム」修了式が12月14日、本郷キャンパスのサロン・ド・フンキョウで開かれました。

22名の交換留学生(アメリカ・マレーシア・ブルガリア・トルコ・カザフスタン・ウズベキスタン)が約4カ月間にわたる本学での学びを修了。櫻井隆副学長から一人ひとりに修了証書が授与されました。

留学生代表として、ムカノヴァ・アリマさんがこれまで学んだ日本語を駆使して貴重な体験を振り返り、本学関係者に感謝の辞を贈りました。文京学院校友会・大石理栄子会長も英語で留学生にエールを贈



り、アメリカからの留学生を引率したジニー・クック教授の挨拶をもって、想い出深い有意義なプログラムを修了しました。

本学と埼玉県立ふじみ野高校との連携講座「高校生をまねる・なる」をタイトルに全体講話。終了後、高校生は次の6クラスに分散し、専門的な知識の講義と、それに関連する活動を体験しました。

①「子どもの運動遊び」(小栗俊之ふじみ野幼稚園園長・同学部教授) ②「手話に触れてみよう」(梶原隆之同学部教授/学生) ③「生活に役立つコミュニケーションスキルを学ぼう」(文野准教授/学生)

④「柴田貴美子保健医療技術学部准教授」 ⑤「携帯電話とゴリラの涙!」(中山教授/学生) ⑥「便利な道具と楽しい生活」(安永雅美保健医療技術学部助教) ⑦「この不思議な体験しよう!」(文野准教授/学生)

どのクラスも、高校生は自分が選んだ授業に熱心に聴き入り、楽しく参加しました。

大学 「GCIキャリアフェス」グローバルにTV中継

「グローバルな環境で働くこと」を副題に、インドネシアと本学をスカイプで繋ぎ、TV中継により現場のフロア話を聞く「GCIキャリアフェス」が12月12日、本郷キャンパスで開かれました。

講師は、科学技術振興機構事業部マレーシア事務所 元所長の今井敬子氏と、スタートアップ・イノベーション・不動産産業に携わるゼネラルマネジャーの泉朋也氏。今井氏は、女性活躍する同国で大規模な任務をまっとうした体験を本郷キャンパスで語り、

「GCIキャリアフェス」が12月12日、本郷キャンパスで開かれました。

講師は、科学技術振興機構事業部マレーシア事務所 元所長の今井敬子氏と、スタートアップ・イノベーション・不動産産業に携わるゼネラルマネジャーの泉朋也氏。今井氏は、女性活躍する同国で大規模な任務をまっとうした体験を本郷キャンパスで語り、

「GCIキャリアフェス」が12月12日、本郷キャンパスで開かれました。

講師は、科学技術振興機構事業部マレーシア事務所 元所長の今井敬子氏と、スタートアップ・イノベーション・不動産産業に携わるゼネラルマネジャーの泉朋也氏。今井氏は、女性活躍する同国で大規模な任務をまっとうした体験を本郷キャンパスで語り、



大学 「高校生のまなびとあそびのキャンパス」大盛況

本学と埼玉県立ふじみ野高校との連携講座「高校生をまねる・なる」をタイトルに全体講話。終了後、高校生は次の6クラスに分散し、専門的な知識の講義と、それに関連する活動を体験しました。

①「子どもの運動遊び」(小栗俊之ふじみ野幼稚園園長・同学部教授) ②「手話に触れてみよう」(梶原隆之同学部教授/学生) ③「生活に役立つコミュニケーションスキルを学ぼう」(文野准教授/学生)

④「柴田貴美子保健医療技術学部准教授」 ⑤「携帯電話とゴリラの涙!」(中山教授/学生) ⑥「便利な道具と楽しい生活」(安永雅美保健医療技術学部助教) ⑦「この不思議な体験しよう!」(文野准教授/学生)

どのクラスも、高校生は自分が選んだ授業に熱心に聴き入り、楽しく参加しました。

